

QBIC 事務局 高精度衛星測位サービス利用促進協議会 (QBIC)

2023 年度 第 3 回 海外展開 WG 会合 議事録

【開催日時】 2023 年 9 月 14 日 (木) 15:00~16:30

【開催場所】 QBIC ビデオ会議室

【出席者】 リーダ・メンバー・講演者・事務局 計 22 名

【配布資料】 議事次第、第 2 回会議資料

【議事内容】

\*Q=質問、A=回答、C=コメント

1. 開会挨拶 礒リーダー

QBIC 活動は今月をもって終了します。とはいえ、海外展開としては、これから広域サービスが始まる段階に来ておりますのでこれからのサービスを検討して行く中で、お話を伺いながら活発に意見交換ができると幸いです。また、今後の活動についても何かご意見あればよろしく願いいたします。

2. 準天頂衛星システムにおける海外展開の現状と今後・・・【内閣府準天頂衛星システム戦略室 野宮様】

【Q&A】

\*参加者から事前にいただいた質問と内閣府様からの回答（添付）を紹介

【桜井】各国でプロトタイプが出来き、次はそれを現地で実装して行くフェーズに入ると伺いましたが、日本企業が参加する機会はあるのでしょうか。

【野宮】ケースバイケースになると思います。日本企業が参加する機会もあるかと思うので今回のような海外サービスの現状について情報提供する場が今後もあることを期待しています。

【礒】MADDOCA の広域サービスもこれから始まるころであり、これまでの実証からさらに一歩進んだものが期待される。皆さんにもぜひ参加願いたい。

【桜井】MADDOCA は電子基準点のデータを提供して頂けるような国が増えてきているようです。ベトナムの宇宙センター方と話す機会がありました。電子基準点が少ないので、MADDOCA を使って電離層補正をすることが非常に良いソリューションに繋がっていく、とお話したところです。

3. 災危通報サービスの活用とアジアオセアニア展開への取り組み・・・【NTT データ礒様】

【Q&A】

【桜井】みちびき初号機で始めた災危通報の実証プロジェクト/RED RESCUE のころのお話がありましたが、この RED RESCUE のプレゼンを見て欧州が驚いて SPAC に飛んできたのを思い出しました。結局、欧州もこれがきっかけで EWS（早期警戒警報）をやろうということになって、それも当初はガリレオ第 2 世代で計画していたのが第一世代に早まり、いよいよ来年から全世界に向けたサービスが始まります。これも RED RESCUE の一つの大きな成果だと思います。

【Q】各国で森林火災や津波の事例の実証を行っているとのことですが、今後その対象国が増え、それぞれの国が対応したい災害の種類が違おうと思います。例えばインドネシアやフィリピンは、火山、地震も当然入ってくるので、どこの国が、どのような情報を主にやりたいかの整理がいるのではないのでしょうか。

また、こうしたことはどういう場で検討されるでしょうか。

【礧】そうですね、協調して話す場が必要です。何らかの指標が必要でカテゴライズしながら優先順位を決め、各国と協議してルール作りしていくことと思います。

【野宮】本格導入するのは、先の話になると思いますが、同時多発的に自然災害が発生する確率は少ないものの、海外のプロバイダーが、我々のみちびきを使った災危を使ったサービスを開始する場合は、何かしら考える必要があると思います。

【桜井】衛星機数が増えると、例えば、11機になると配信チャンネルが増え、各国に別々に配信できることも考えられるのですか。

【野宮】11機での信号リスト案は検討中でユーザの意見も聞きながら進められればと思います。

#### 4. 海外展開 WG 活動総括 【礧リーダー】

企画運営委員会（9月6日）資料をもとにQBIC第2期海外展開WG活動総括を礧リーダーより報告、参加の方々からこれまでの活動についてコメントをいただいた。最後に礧リーダーの挨拶をもって終了。

● 安田先生からの別途、メールにてメッセージをいただきました。

日本独自の技術を活用してもらって、安心・安全な世界を実現してもらいたいものです。

QZSSのサービスエリア内の国々はもとより、全世界への技術の展開が望まれます。

8月末から一週間、東京海洋大学で海外から20名の学生・若手技術者を招いて、GNSSサマースクールを開催しましたが、彼らが技術展開の核になることが期待されます。MGAの活動との連携も期待されます。

当WGの今後の継続的な活動を期待しています。

安田明生

測位航法学会

#### 5. その他、事務連絡等

時間の関係から割愛。

## 事前にいただいた質問への内閣府様回答

海外展開 WG 会合 (9.14)

1.QZS5 号機打ち上げ時期についての見通しについて、現時点で 2023 年度中に打ち上げられる可能性は残っているのでしょうか？

⇒5 号機打ち上げ時期については現在でも未定です。試験機 2 号機の時期もまだ明確ではないこともあり、その結果によって調整が進むものと想定しております。

2.災危通報は今後、認証サービスの対象となっていくのでしょうか。なりすましが懸念されるところです。

⇒災危通報の認証は現状、計画はありません。元々データ伝送容量も制約があるところ現状は厳しいと思われます。

3.追加 4 機はバックアップのためと聞いていますが、サービスの途絶時間がどのように改善されますか。サービス中断時間は民間で利用が進む中、重要な関心事になっております。

⇒サービス中断時間は、例えば現状は軌道制御でサービスが数日停止することがありますが、そのような計画停止を基本的にはバックアップ機で補い、7 機体制のサービスが劣化しないようなことを今後の具体的な開発の中で考えていきたいと思っております。

4.使えるチャンネルも 11 機になると増えると思われますが、新たなサービスについて民間からアイデアを募集するとか、ユーザ要望を聞く機会など今後ありますでしょうか。

⇒機数が増加後の「シグナルリスト案」については、先日受信機 WG においてご紹介をさせて頂いたところです。他の GNSS との関係や周波数利用制約上、自由に信号を増やすことは難しいのですが、何か具体的に要望の声があるようでしたら是非伺いしたいです。

2023/9/14QBIC海外展開WG参加者名簿

区分	団体名	氏名
リーダー	株式会社NTTデータ	磯 尚樹
サブリーダー	一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構	桜井 也寸史
会員	株式会社協振技建	栄野比 直重
	小峰無線電機株式会社	和田 亮
	株式会社ジェノバ	今給黎哲郎
	JIPDEC	松下尚史
	準天頂衛星システムサービス株式会社	神藤 英俊
	セプトントリオ株式会社	井上 雅永
	東京海洋大学	安田明生
	日精株式会社	中嶋 克二
	日本電気株式会社	市ノ瀬 大樹
	日立造船株式会社	五百竹 義勝
	三菱電機株式会社	山口 雅哉
	三菱電機株式会社	小林亮
	三菱電機株式会社	小林亮
	山口宇宙利用コンサルタント事務所	山口由仁
オブザーバー	内閣府準天頂衛星システム戦略室	沼田 健二
	内閣府準天頂衛星システム戦略室	境 あさぎ
アドバイザー	防衛大学校	浪江 宏宗
講演者	内閣府準天頂衛星システム戦略室	野宮 真人
	一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構	齋藤 雅行
	一般財団法人宇宙システム開発利用推進機構	栗栖 尚子
参加人数		22名

